

大学出版

4
号

'87
秋



大学出版部協会

Association
of
Japanese University
Presses

北海道大学図書刊行会

Hokkaido University Press

慶應通信

Keio Tsushin Co., Ltd.

産業能率大学出版部

Sanno Institute of Business Administration

玉川大学出版部

Tamagawa University Press

中央大学出版部

Chuo University Press

東海大学出版会

Tokai University Press

東京大学出版会

University of Tokyo Press

東京電機大学出版局

Tokyo Denki University Press

東京農業大学出版会

Tokyo University of Agriculture Press

東京理科大学出版会

Science University of Tokyo Press

法政大学出版局

Hosei University Press

明星大学出版部

Meisei University Press

早稲田大学出版部

Waseda University Press

名古屋大学出版会

The University of Nagoya Press

関西大学出版部

Kansai University Press

九州大学出版会

Kyusyu University Press



大学出版
4号

Fall · 1987

大学出版部協会の歩み

昭和38年(一九六三)6月11日 大学出版部協会設立

総会、東京大学出版会館にて。玉川大学出版部、中央大学出版部、東海大学出版会、東京大学出版会、東京電機大学出版局、東京農業大学出版会、法政大学出版局、日本学術振興会、日本図書文化協会(東京教育大学)、早稲田大学出版部、以上十校代表者により大学出版部協会設立総会を行なう。大学出版部協会初代幹事長、箕輪成男。

昭和46年(一九七二)11月 関西大学出版部協会加入

昭和47年(一九七二)9月 北海道大学図書刊行会、協会加入。

同年11月 アジア太平洋地域大学出版部会議《国際図書年》を記念して(第一回)東京開催、主催大学出版部協会。

昭和51年(一九七六)5月 国際学術出版会議(京都大会)および国際学術出版連合第二回総会を国立京都国際会議場にて開催。

同年9月 新幹事長に中平千三郎(東京大学出版会)選出。九州大学出版会、協会加入。

同年11月 玉川大学出版部・東海大学出版会、国際学術出版連合に加入。

昭和52年(一九七七)12月 東京電機大学出版局、協会再加入。

昭和53年(一九七八)2月 協会はじめて「大学出版部協会総合図書目録」一九七八年度版(合本)を刊行し、共同発送完了。以後年一回定期。同年5月 東京大学出版会にて、協会設立十五周年・回顧と展望座談会を行なう。

同年10月 大学出版部協会創立十五周年記念「大学出版図書展示即売会」を伊国屋書店PRルームにて開催。

同年12月 明星大学出版部、協会加入。

昭和54年(一九七九)8月 産業能率大学出版部、協会加入。

昭和55年(一九八〇)7月 日本生命財団第一回出版助成の贈呈式と講演会。大阪・日本生命財団にて行なわれた。12月 慶應通信、協会加入。

昭和56年(一九八一)8月 韓国大学出版部協会訪日団の歓迎レセプション(日本出版クラブ)。

同年9月 中国にて「日本大学出版物展覧会」を中国図書進出口総会社の主催、大学出版部協会の協賛により開催。

昭和57年(一九八二)9月 名古屋大学出版会、協会加入。

同年9月 「日米大学出版局刊行物展」が、丸善主催、日米両国の大学出版部協会の協賛により丸善本店で開催。

昭和58年(一九八三)5月 大学出版部協会創立二〇周年記念講演会を伊国屋ホールにて開催。

昭和60年(一九八五)4月 新幹事長に石井和夫(東京大学出版会)選出。東京農科大学出版会、東京農業大学出版会協会加入。

同年8月 中国大学出版部代表団、来日。

昭和61年(一九八六)5月 協会広報誌「大学出版」86春創刊。

同年9月 北京国際図書展へ大学出版部協会訪中代表団参加。

日本生命財団
文化・学術の
振興のための助成
国際交流基金
出版援助について
鹿島学術振興財団
翻訳図書への助成
——民間助成財団活動の一側面
サントリー文化財団
国際理解の促進のために
トヨタ財団
出版関連の
助成プログラムについて
訪中報告
大学出版部ニュース
新刊案内 '87・4・9

望月信彰 1

中村 聰 3

吉川 藤一 5

佐野善之 7

山岡義典 9

石井和夫
加藤千曼樹
惣塚一雄 11

15 19

日本生命財団

文化・學術の振興のための助成

望月 信彰

(前)日本生命財団・専務理事・事務局長

日本生命財団は、昭和五四年七月に、日本生命保険相互会社が創業九〇周年を記念して発足しました。当財団の寄附行為によれば、「多面にわたる人間生活の諸環境条件について、その総合的な向上を図るため、環境を構成している諸分野における時代や社会の要請および必要性を把握し、各分野の事業および研究に対する助成を行い、もって人間性、文化性、豊かな社会の建設に資することを目的とする」となっております。

設立以来の助成プログラムは、現在のところわが国の社会において特に要請度が高いと考えられる次の四つの分野、①児童・青少年の保護・育成、②高齢者の福祉と社会参加、③環境の改善と健康の増進、④文化・學術の振興、を対象とする有意義な事業や研究ならびに出版に対し、毎年六億円程度の助成を行っています。

このうち、文化・學術の振興の分野においては、學術書出版助成、博物館総合案内出版助成ならびに特別研究助成

の成果刊行助成を実施していますので、簡単に説明いたします。

〔學術書出版助成〕

この助成の目的は、學術的、専門的見地から、出版・頒布あるいは記録・保存が強く要請されているにもかかわらず、市販性あるいは採算性に乏しいため、刊行に至っていない學術書・専門書および研究論文等を、大学出版部協会加盟の大学出版部に刊行して頂き、もって文化・學術の振興に寄与することであり、現在のところ助成スタンスとして、次の領域の出版物を対象といたしております。

①わが国文化遺産として各地方に伝わる古文書、物語、伝統的風俗・芸能・習慣・制度などの史料の保存、研究

②心身の健康にかかわる研究

③生活環境（環境の保全、改善、災害等）に関する研究

この助成は、財団の発足と同時に開始され、今年度末まで一二年の書目が刊行される予定です。候補書目の選定ならびに推薦を、大学出版部協会にお願いしています。協会が出版部をもたない大学や研究機関等の埋れた學術書の発掘にもご尽力して下さっているお蔭で、全国の大学から在野の研究者に至る幅広い著者の刊行物に助成することができました。

今後とも当助成を継続し、充実させていく予定であります。

〔博物館総合案内出版助成〕

この助成の目的は、博物館の常設展示総合案内の編集、出版に対し助成することにより、博物館利用者の知識を高め、情操を養い、郷土文化への関心を深め、もって未来の豊かなくらしの創造と活力ある社会の建設に寄与すること

であります。

当該博物館より資料の提供を受け、学芸員の方々に解説文の執筆をお願いし、共同で編集を行います。この総合案内はあらゆる世代を対象としているだけに、現代感覚を盛り込み、義務教育終了程度の学力にて理解できるわかり易い解説を加えた入館案内書として、また写真で見える歴史読本（自然史読本）として、各層の方々から確かな支持を得ています。

当財団では、制作した総合案内を、当該博物館および所在地内の小・中・高等学校、図書館等に寄贈しています。博物館ではこれを入館者に再版に必要な経費を準備し得る価格で頒布し、重版の財源に充てることにより、半永久的に刊行が繰り返されるシステムとなっています。

この助成プログラムは「各地において博物館の設置や充実が図られている反面、常設展示総合案内の類書がほとんど制作されていない」との当財団理事のアドバイスを受けて開始したものであります。昭和五七年度に大阪市立博物館に対し助成し、以降毎年三〜四館に助成していますので、今年度末には累計一八館の総合案内が完成することになります。

この助成も相当長期にわたり実施いたしますが、最終的には全国六〇館程度の総合案内の刊行を予定しています。

〔特別研究助成の成果刊行〕

特別研究助成は、二一世紀に向けて、社会の変化に的確に対応するため、社会的要請度の高いテーマについて学際的総合研究組織を当財団にて編成し、二〜三年にわたり助成を実施するものであります。助成終了後は、研究成果の発表を中心に公開シンポジウムを開催するとともに、成果

刊行物を一部買取方式で、刊行助成を行っております。出版社は特に限定しておりませんが、東京大学出版会より刊行された「The Growing Child in Family and Society」をはじめ、「二一世紀高齢社会への対応」など、現在までに九冊が刊行されております。

今後とも特別研究助成が終了する毎に、成果刊行助成を実施していく予定であります。

以上が、当財団の実施している出版助成であります。当プログラムを遂行する上で重要視していますこと、ならびに今後の課題について少し述べてみます。

① 刊行物の先駆性、話題性を重要視しています。他に類を見ない、あるいは社会にインパクトを与えるような刊行物に助成していく必要があります。

② 刊行物が市販性あるいは採算性に乏しいことを重要視しています。財団の助成なくしては実現し得ない刊行物に助成していく必要があります。

③ 刊行物が学術的に価値が高く、専門性に富んでいることを重要視しています。

④ 助成プログラムの継続性を重要視しています。財団の資金は基本財産という形で保障されていますので、継続的な社会貢献をする必要があります。

⑤ 主体的なテーマの設定を重要視しています。二一世紀を展望したテーマの設定、能動的な助成活動が社会的に求められています。

⑥ 出版助成のプログラムについて、社会的要請の変化に対応したプログラムを開発していく必要があります。

国際交流基金

出版援助について

中村 聡

(国際交流基金・資料部長心得)

国際交流基金の出版援助は、日本に係わる主題を扱った人文・社会科学および芸術分野の外国語で書かれた図書を対象としている。

助成する費目は、印刷・製本費で、通常、この総額の四分の一を限度として援助することとなっているが、開発途上国や非営利出版者の場合には、事情に応じてこの上限額を総額の二分の一にまで引き上げて実施してきた。

しかし、このような分けかたは必ずしも実情に適合していない、助成率ももう少し引上げて欲しいとの要望が強いので、六三年度より、国内出版者からの申請に限り、上限を一般書で印刷・製本費の四〇%、学術書で六〇%の助成率に改めることとなった。

ただし海外からの申請に関しては、新方式に移行するかどうか現在検討中で、取りあえず六三年度の申請は、従来

通り、先進国の出版者四分の一、開発途上国や非営利出版者二分の一の方式で処理されることとなっている。

このプログラムに応募し得る資格は、出版者のみに限定されているので、著者・翻訳者でこの援助の適用を希望されるむきには、出版者を選定し、そこを通して申し込まれるようにおすすめしている。

本年度の本件プログラムへの応募件数は七四件で、その中四三件に助成が決定した。本年度の一件当たりの助成額は約七八万円である。この制度が開始された四九年からの助成決定件数は、合計四二五件に達する。

毎年行われているこの助成を「通常助成」と称するならば、「特別助成」とでも称すべきプロジェクトが過去に三回あった。(その中の一つは現在も継続中である。)

(1) 仏語日本歴史辞典

日仏会館では、分冊形式によるフランス語の日本歴史辞典 *"Dictionnaire historique du Japon"* の編纂・発行を企画し、昭和三八年に第一巻(A)を発行した。基金は、四九一年に刊行された第三巻(C)より助成を開始し、当初は試行錯誤的に助成費目が年度によって変わる時期があったが、やがて印刷・製本費の全額助成という方式に一定し、援助を継続している。本年度第一三巻(K3)への助成を実施中である。

全巻完成は一九九四年の見込みである。

(2) ケンブリッジ「日本史」

ケンブリッジ大学出版会は、五二年に、ジョン・ホール、マリウス・ジャンセン、金井圓を始めとする内外約百名の学者の共同執筆になる全六巻の“Cambridge History of Japan”の編纂を企画し、基金はこれに一〇万ドル（執筆料八万ドル、翻訳料二万ドル）の援助を、五二年から五六年の五年間、毎年二万ドルずつ実施した。その後、執筆・翻訳に予想以上に手間を要したが、本年度末に最初の巻が発行される予定である。

(3) 日本文学仏訳助成

「日仏の明日を考える会」（いわゆる「日仏賢人会議」）が提案した現代日本文学のフランス語訳の計画に、小西国際交流財団と共に、基金は、五九年から六一年までの三年間に、約一五〇〇万円の翻訳助成を実施した。

その結果、六一年にパリのガリマール書店より、「現代日本短編小説選集Ⅰ」と「日本現代詩選集」が刊行された。

引き続き、「現代日本短編小説集Ⅱ」が近く刊行される予定である。

以上が、国際交流基金がこれまでに行ってきた出版援助の概要であるが、六三年度からは、新たにこれに加えて、翻訳援助の制度を発足させる運びとなっている。

このプログラムへの申請資格は、当面、日本国内の法人である出版者、著作権エージェンツに限られる。しかし、

海外の出版者も、日本国内の著作権エージェンツを経由することによって、この制度を利用する道が残されている。

この制度は、出版援助と対を成すように作られているので、助成額の上限が学術書で翻訳料総額の六〇%、一般書で四〇%と定められているのを始め、類似している所が多い。特徴的な点を二、三挙げると、(1) 助成対象者に校閲料（著作権エージェンツの場合は手数料）として、基金が翻訳料として査定した額の一〇%相当分を支払う、(2) 翻訳中の段階で、助成金の分割払いが認められる、(3) 申請者の自由応募の枠とは別枠で、基金が選定した「翻訳推薦著作リスト」（主として未翻訳の古典を収録）の枠を設け、このリストに掲載されている著作を翻訳した場合に、助成金上限額を翻訳料総額の八〇%と優遇する等の諸点である。ただし、(3)の「翻訳推薦著作リスト」は現在、選定委員会を準備中の段階で、実施は六四年度以降となる見込みである。

出版援助の申請締切りは、援助が実施される前年度の二月一日である。翻訳援助の締切り日は一〇月一日を予定しているが、六三年度申請に關してのみは、初年度なので、一二月一日締切りとなる。申請案内・申請書の入手を希望されるむきは、下記に申し込またい。

〒1102 東京都千代田区紀尾井町3-16 パークビル

国際交流基金 資料部

鹿島学術振興財団

翻訳図書への助成

— 民間助成財団活動の側面 —

吉川 藤 一

(財)鹿島学術振興財団・常務理事

十月五日に開催された日本生命財団の研究助成・出版助成贈呈式に出席したとき、東大出版会の石井さんと翻訳図書について話したが、これがきっかけで「大学出版」から寄稿を依頼される羽目となった。

鹿島には、わたくしの働いている鹿島学術振興財団のほかに鹿島美術財団があり、美術に関する調査研究、美術図書の刊行、美術に関する国際交流などに資金の援助をしている。「美術財団」にはわたくしの先輩の前川春雄氏(元日本国際教育協会常務理事)が常務理事をしている。前川さんとは、ときどきコーヒーを飲みながら雑談するが、たまにたま或る日、出版助成と翻訳図書のことについて話したことがある。

アメリカのカリフォルニア大学バークレー校美術史学部ジェームス・ケーヒル教授の、「近世中国絵画史―江岸別意(中国明代中期の絵画)」の日本語への翻訳図書への助成に関するものであった。わが国では翻訳ということに對する評価が不当に低いこと、しかし良い翻訳図書の出版に對しては積極的に助成がなされる必要があることなどが話題となり、また、これが石井さんと話すきっかけとなった。同書は「美術財団」の援助によって本年七月に刊行されている。

わたくしは昭和四十七年から文部省の情報図書館課(現在の学術情報課)に勤務していたが、当時の研究成果刊行費(いまでは「研究成果公開促進費」といわれる)の運用のなかで、学術の国際交流に重要な役割をになうものとして、欧文学術雑誌(例えば日本化学会の欧文雑誌など)に對する援助費の増額、また、特定学術図書として、翻訳図書に新規に助成の途をひらいたことなどが思い出される。

前書きが長すぎたようである。本題に入ることしよう。出版助成を行う助成財団は、(財)公益法人協会から出版されている「日本の助成型財団要覧―一九八五年版」によって紹介されている。この要覧には全体として一五〇余りの財団活動が紹介されているが、そのなかで出版及び出版を目的とした編集、翻訳業務への助成を行っているものは三

七財団とされている。

この三七という数だけで見るとかなりの民間財団が出版助成を行っているようであるが、しかし、日本生命財団、サントリー文化財団、前述の鹿島美術財団のように、特定の項目として出版助成を明示している財団は少いようである。サントリー文化財団は、海外出版助成として、日本の文学・芸術・評論並びに日本に関する学術的研究の外国語への翻訳及び海外での出版に対する助成を行っている唯一の財団である。前記「要覧」の最新版が、助成財団資料センター（新宿区新宿二―一―一四エレメンツ新宿ビル）から近く刊行される予定である。

民間助成財団はその数も多く、また、思い思いに各種の領域について助成活動を行っているが、その実態はあまりよく分からないというのが実情である。そこで数年前から財団有志が集って、財団とその利用者とのパイプ役を果たすことを目的として前記の「資料センター」が設けられた。このセンターは、助成財団事業に関する文献・資料の収集整理と閲覧、要覧の編集、出版、助成活動の広報などを行うこととされているので、これからはさらに的確に、助成活動の内容が一般の利用者に理解され易くなるように思われる。

しかし、今の所、民間財団の出版、翻訳（業務）に対す

る助成の規模は、それほど多くないようにみえる。

わたくしのところの「鹿島学術振興財団」は、学術研究の助成、研究者の国際交流援助、その他の国際学術共同事業等の三つの柱に、毎年約一億円の予算があてられている。出版助成として特別に項目を設けていないので、前記出版助成を行う三七財団のなかにはカウントされていない。しかし「研究助成」、「その他の国際学術共同事業援助」という項目のなかで、実際は出版のための援助とくに翻訳図書への援助となっている例もある。

この「三七」の財団に含まれない他の財団のなかにも、実体として出版助成を行っている例もかなりあるのではなからうか。民間助成財団の事業内容が、より正確に、一般に周知されることが望まれる。

欧米の助成財団活動に比べ、日本の民間活動の立ち後れが、しばしば指摘されている。全体として助成の規模が小さいのだから、出版助成にまわる金額も少ないのはやむを得ないと思われる。しかし喜ばしいことに、近年わが国にも年間援助額五億円規模の財団が現れはじめている。わたくしは、このような有力財団が学術情報、学術図書の出版、そして翻訳業務の重要性も理解され、援助の途を広げられることを願い、また、大学出版部と民間助成財団の連絡をより緊密にすることが大切であると思われる。

サントリー文化財団

国際理解の促進のために

佐野 善之

(附サントリー文化財団・専務理事)

サントリー文化財団は、サントリー株式会社創業八〇周年を記念して、昭和五四年に設立され、以来、社会と文化に関する国際的・学際的な研究の発展、日本ならびに世界の学術文化の発展に寄与するため、様々な事業活動を進めてきた。その事業内容は、国際シンポジウムの開催や研究助成を始め、日本各地の優れた地域活動を顕彰する『サントリー地域文化賞』や、新進の研究者・評論家の独創的な業績を顕彰する『サントリー学芸賞』の贈呈など、民間の文化系助成財団として、従来にない独自性を誇り、時代に対応した柔軟な姿勢で活動を展開している。

中でも、当財団の主たる活動の一つである『海外出版等助成』では、国際化・情報化の時代に応えた国際理解を促進するため、日本の文学・芸術・評論ならびに日本に関する

る学術研究の外国語への翻訳および海外での出版に対して助成を行っている。神秘的なオリエンタリズムや経済大国としてのイメージのみが強調されがちな今日の日本を、文化・学術の面から多面的に捉え、その実像を世界の国々に紹介するために、助成対象の分野は多岐にわたっている。例を挙げると、「万葉集」や「源氏物語」をはじめとする古典文学の翻訳と研究、「現代日本戯曲集」、田山花袋「東京の三十年」など近代・現代の文芸作品の翻訳、日本の伝統工芸・美術の研究や紹介、あるいは日本の研究者の法学・政治学・経済学・社会学などの最新の研究書や専門書の翻訳・出版、海外の研究者による日本文化論、日本学研究雑誌などに助成を行っている（特に、世界の代表的な日本学研究誌である米国ワシントン大学の「ザ・ジャーナル・オブ・ジャパニーズ・スタディーズ」に対しては、昭和五四年から六〇年まで継続して助成を行った）。

この『海外出版等助成』では、助成金総額が例年五〇〇万円ほどと規模も比較的小さいので、現在のところ助成申請の公募を行っていない。サントリー文化財団の活動紹介を目的とした方々からの助成申請の問い合わせは年々増加しているが、当出版助成の趣旨を充分ご理解頂いた上で、申請書をお送りすることになっている。これまでの助成先は、日本国内のみならず、アメリカをはじめイギリス・フランス・オランダ・デンマーク・オーストラリア・韓国など数ヶ国に上っている。

このように世界各国から寄せられる多方面多分野にわたる候補の中から、限られた助成金を有効に生かすべく助成先を決定するのは、誠に困難を極める作業である。年一回、毎年一二月末頃に開催される選考委員会には、美術史の木村重信大阪大学教授、建築家の黒川紀章氏、文化人類学者の中根千枝氏、経済学の小池和男京都大学教授、政治学の村松岐夫京都大学教授という錚々たる先生方に選考委員としてご出席をお願いしている。ご専門のお立場からだけでなく、日本の社会と文化一般に対する深いご理解と世界各国の事情に通暁した幅広いご見識をもってご選考頂き、委員会の席上は談論風発、最後にはわが財団の motto「独断と偏見」によって、今最も求められている出版計画に助成すべく最良のご決断を下して頂いている。殊に、バラエティーに富んだ助成先や、各国の通貨事情などを考慮した助成額の決定、昨今の出版を取り巻く厳しい状況を理解し助成金の支払い時期・支払い方法に細かい配慮を払うなど、柔軟で型に捉われぬ民間財団ならではの助成活動によって、助成先の方々から感謝を頂いている。

出版活動への支援という点で言えば、地域における文化活動を顕彰する『サントリー地域文化賞』でも、地域の人々の生活や心に密着した地域出版活動に対して、熊本県の「青潮社」を始めこれまでに数件の賞を贈呈してきた。また『サントリー学芸賞』では、出版物として発表された

業績を対象として政治・経済・芸術・文学、社会・風俗、思想・歴史の四部門の賞を設けている。さらに、この賞の受賞者も執筆陣に加え、日本及び海外の第一線で活躍中の学者・文化人による国際総合雑誌「季刊アステイオン」(TB Sブリタニカ発行)の編集にも携わり、直接出版文化へのささやかな貢献を行っていることも付け加えておきたい。

本年度で『海外出版等助成』も第九回目を数えるが、この九年間に、世界的に日本に対する関心が高まりつつあることを実感せざるを得ない。様々な新しい分野・角度から日本や日本人の姿が紹介されようとしており、政治・経済の分野では日本の最新の研究成果が翻訳・出版されている。また「源氏物語」などの古典文学では、アメリカ、フランスの研究者によって過去の研究の実績を踏まえた本格的な優れた研究がなされているし、韓国では「万葉集」「古事記」などの翻訳と比較研究が初めて出版物になった。政治・経済・技術など多くの面での国際交流が華やかに繰広げられている今日、そういったなかでこそ、出版物による地道な日本紹介や国際理解の促進が一層重要となってくると思われる。海外における日本への関心が増すとともに、この助成活動の意義を再認識し、責任の重さを感じる。地道な努力を積み重ね出版活動に取り組んでおられる方々への理解をさらに深め、今後より広く出版文化への助力を続けてゆくことで、これからの国際相互理解の一助になればと祈念するものである。

トヨタ財団

出版関連の助成プログラムについて

山岡 義典

(副)トヨタ財団・プログラムオフィサー

現在、私たちの財団では、出版に関連した助成事業として、次の三つのプログラムを実施している。

- ① 「隣人をよく知ろう」プログラム
- ② 成果発表助成
- ③ 活動記録助成

「隣人をよく知ろう」プログラム……この助成は、わが国と東南アジア諸国、および東南アジア諸国間の相互理解の促進を目指して実施されているもので、日本向け、東南アジア向け、東南アジア相互間、の各翻訳出版促進助成と、東南アジア諸語辞書編纂出版助成の四つのサブプログラムから成っている。

「日本向け・翻訳出版促進助成」は、東南アジア諸国の人々が書いた文学作品や文化・社会・歴史等についての本

の中から、日本の一般読者に紹介することがふさわしいと思われる本を、東南アジアの人々の推薦を受けて選びだし、それらの本の日本語版を出版するときの翻訳料を助成するものである。一九七八年度に発足しており、この十月の助成決定で十年目を迎えた。この間、一一七件が助成の対象になっている。大学出版部協会の関係では、九州大学出版会から出されたタイ文学書『絵の裏』（シーブラバー著、小野沢正喜・小野沢ニッター訳）がある。

「東南アジア向け・翻訳出版促進助成」は、日本に関する社会科学書、人文科学書、文学作品および日本人による東南アジア研究の成果を、東南アジア諸国の言葉に翻訳し出版する費用を助成するものであり、「東南アジア相互間・翻訳出版促進助成」は、東南アジアの人の手になる社会科学書、人文科学書、文学作品を他の東南アジアの言葉に翻訳し出版するときの費用を助成するものである。いずれも助成先は東南アジア諸国の出版組織である。

「辞書編纂出版助成」は、東南アジアと日本との交流活動の基礎となる東南アジア諸語―日本語辞書の編纂と出版に助成するもので、これまでにタイ語とヴェトナム語に関するものが助成対象となっている。前者はこの一月に『タイ日辞典』（富田竹二郎著、養徳社刊）として出版されたが、ちょうどこの九月が日タイ修好百周年ということので、その慶祝版として発行され、話題を呼んだ。

成果発表助成……この助成は、トヨタ財団の助成による成

果を広く社会に発表することを目的として、報告書の印刷、刊行物の出版、シンポジウム等の集会の開催、国際学術研究会への出席等に助成するものである。

ここでは、刊行物の出版についてだけ触れておこう。助成の対象となる費目は、編集作業費、初版出版促進費、献本買上費で、出版物の内容や性格によって、これらのいずれかあるいはすべての費目が助成される。原則として、出版部数二千部以上のものは助成対象とならない。従って、トヨタ財団の研究助成の成果であっても出版助成無しで刊行されるケースもかなりある。大学出版部協会関連のものとしては、東京大学出版会から出された『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』（戦前期官僚制研究会編／秦郁彦著）、『Environmental Protection and Coastal Zone Management in Asia and the Pacific』（加藤一郎他編）、『科学研究のライフサイクル』（山田圭一・塚原修一編著）等がある。

活動記録助成……この助成は、先駆的・創造的な市民活動の記録を作ることによって実践の体験を市民の共有財産とし、そのことを通して市民活動の促進を図ろうとするものである。一九八四年度に「記録の作成」についての助成を開始し、その成果が出はじめた一九八六年度から「記録の出版」に対しても助成を開始した。まだ始めて間もないプログラムで、試行時期にあると言えよう。「記録の出版」に関する助成の対象費目は編集費、出版補助、買上費で、一

〇〇万円の基準額の中で出版物の性格に応じて適宜配分するようにしている。しっかりした本をできるだけ広く普及することが目的であるから、出版部数の制限はしていない。

これまでに七冊の出版助成が行われており、そのうち『冒険遊び場がやってきた!』（羽根木レイパークの会編、晶文社刊）と『ハンディキャップ・オリエンテーション』（安藤忠他著、松籟社刊）の二冊が刊行された。学術とか文学とは異なる市民向けの本が中心であるから、大学の出版部や出版会とはあまり関係がないかもしれない。

以上、現在進行中の出版関連プログラムを簡単に紹介した。最後に一言私見を述べさせていざと、出版助成の内容はその目的によって多様であることが望ましいと思う。私たちの場合でも三つのプログラムで全く違うやり方をしていけるし、同じプログラムの中でも本の種類や性格で助成の内容が異なっている。出版助成の場合、助成額自体は多々益々弁ずといった性質のもので、いくらなければといった絶対値があるものではない。だから助成額はその助成で何をプラス・アルファしようとするかによって決まってくる。そのアルファの内容次第でさまざまな助成の方法があるはずである。一律の単純な方式は出版文化にとってマイナスに働くことすらあるのではないかという気もする。

訪中報告 (一九八七年九月六〜一七日)

大学出版部協会・訪中代表団

石井 和夫

(東京大学出版会)

加藤 千曼樹

(東海大学出版会)

惣塚 一雄

(東京大学出版会)

(1) '87国際外国語教育図書展示会

'87国際外国語教育図書展示会は、九月一〇日から一六日まで、北京・天安門前の革命博物館大ホールで開催され、大学出版部協会は国際交流基金の助成を得て、代表団を派遣し、これに参加した。主催は中国国際図書貿易総公司ならびに中国外語教学研究会。一〇日午前一〇時の開幕式には中国国家教育委員会副主任・劉忠徳氏、文化部对外文化聯絡局副局長・吳春徳氏をはじめ日本大使館の大和滋雄参事官ら内外の学術・教育・出版関係者らが参列、華やかにテープカットが行なわれた。国際図書貿易総公司の王慶雲総経理の挨拶でも述べられたが、四つの現代化建設のため、世界各国の先進的経験と科学技術の知識を吸収するため、



言語教育図書の展示に見入る石井和夫幹事長。



中国大学出版社協会幹部と。

まず言葉と文字の道を開くべく、この展示会は開催された。その意気込みは正面に大書された「書是人类進歩之階梯」にいまじくも語られていた。

出品は一五カ国数百の出版社におよび、約一万点の各国それぞれの言語教育にかかわる図書、ビデオ、カセットテープ等が展示され、また備え付けのテレビやテープレコーダで実演されていた。わが国からの出品は一八八社、約一七〇〇点で、アメリカについて二位とのことだが、漢字文化圏の強みであろう、会場の中で最も活況を呈しているように思われた。われわれ大学出版部協会加盟の出版部からは、比較言語・国語学・古典研究（源氏物語等）が出品されていたが、北京大学出版社の麻子英社長はとくに *Comprehending Technical Japanese*（『科学技術日本語入門』東京大学出版会、一九七五）に強い関心を示し、これに中国語が加われば、まさに四つの現代化推進の強力な武器となりうるものと評価された。もちろん、初級・中級の国語教科書も注目を集めていた（人民教育出版社の編集担当、張国強氏から資料交換の強い要望があった）。

しかし中国の外貨不足は深刻でその規制は厳しく、参観者の多くは、「読みたいが、買えない」との憾みを抱いているようであった。そうした観点からすれば、図書輸出よりも、英国マクミラン社のように『現代英語』を高等教育出版社と提携して共同出版（一九八五年一〇月調印）し、大学教科書の普及に協力することの方が、語学教育渗透のう



首都大学出版社グループ（北京大学，北京師範大学，外語学院，
体育学院，人民大学，師範学院）のメンバーと。

えでより実際の・効果的といえるのではないだろうか。この『現代英語』は、教育部の外国語教科書編集検定委員会の制定した「英語教学大綱」をもとに、マクミラン社・高等教育出版社双方の専門家が編集に当り、高等教育出版社が印刷・発行しているという。

わが国でも、既に国際交流基金による「対中国日本語教育特別計画」（一九八〇—一九八五）が成功裡に終了し、現在、第二次事業が進行中の由であるが、教科書の現地生産の話は聞かなかった。

（２）中国における翻訳著作権問題

（１）中国著作権法の現状

一九八七年八月二六日、日販セミナー「円高時代の中国市場」の際に配布された「中国著作権法の現状」によると、すでに中国では一九八五年三月パリ条約加盟後、四月一日から特許法を施行している。著作権法（著作権法）もこれにならない、本年一月、全人代に提案、可決後、速やかに国際条約に加盟する予定という。その空気は国務院法制局の主催した「全国版權座談会」（青島）における「対外文化交流を強化するため一刻の猶予もならない」という国家新聞出版処責任者の発言からも窺い知ることができる（『日中文化交流』八七、九、一）。

著作権管理体制についても、これより先、中国国際貿易促進委員会特許代理部の方揚春部長が来日、わが国著作権

法を調査し、日本国際貿易促進協会の中国特許相談室に魏啓学法律処副処長（弁護士・弁理士）が派遣され、著作権法制定の準備作業にあたっていているという（日本国貿促・業務第二部、長谷部次長気付、Ⅷ〇三―二四五―一五七二）。

(2) 中国における翻訳出版の現状

一九八七年九月現在、中国はベルヌ・万国両著作権協定のいづれにも加盟しておらず、翻訳フリーの状態にある。

そのため、多くの日本関係著作が無断で翻訳あるいは翻案、ないし、復刻されている状況である。今回訪中に当り、平等互恵に則り、国際慣行に即して翻訳出版が行なわれるべきことにつき懇談したところ、前向きな反応を三つの出版社と一つの研究所で得ることができた。

高等教育出版社（楊陵康副社長）、生活・読書・新知三聯書店（沈昌文總經理）、北京大学出版社（麻子英社長）、中国社会科学院日本研究所（彭晋璋副所長）

(3) 翻訳契約に関する具体的要件

① 独立自主、互恵平等、国際慣習尊重の精神に則り、著作・出版権法を遵守する。そのため具体的には翻訳権契約は出版社相互間において締結することを基本とする。

② 翻訳については原著作を尊重し、正確な全訳による出版を原則とする。

③ 原出版社の著作権保有に関し、翻訳出版社は当該書の扉に明記し、版權の所在を明らかにする。

④ 翻訳にあたり版權料を原出版社に支払う。版權の料率

は、国際慣習に準拠する（但し、中国における出版上の制約から、定価は極めて廉価、部数も学術書の場合、少数部に限定され、且つ外貨支払は殆んど不可能である――高等教育出版社）。

例えば、二元×一〇〇〇部×五%＝一〇〇元（邦価約四〇〇〇円）

そのため「現段階では版權契約書を出版社相互でとりかわし、正確な訳と、刊行条件（定価部数・版權料支払等）の明示があれば充分で、版權料の支払は人民元を中国国内の第三者に供託されればよしとすること」などを話し合った。

⑤ 以上により、契約出版社に対しては、独占・排他的發行権が保証され、原出版社としては著作權の保証が得られ、さらに、当該著作の中国における購読状況（発行売上部数、読者の反応等）の把握が期待できる。

⑥ なお、中国における国内文献の刊行部数は、概ね五〇〇〇部以上で、それ以下のものはなかなか印刷所の日程に乗りにくく、優先順位を確保するためには刊行助成金が非常に有効に作用することであった（例・田恒訳『日本の基金』社会科学文献出版社、一九八七、トヨタ財団より助成）。

（表3に続く）

北海道大学図書刊行会

■ 売行不振が語られて久しい専門書の世界であるが、出版元の偏見と弱気に規定され、部数決定の心理とその結果のズレにいつも頭を悩ませている。『マルクス機械論の形成』の場合、当分重版も見込めずその分を初版に上乗せ、来年以降の在庫も覚悟した。結果はすく出た。半年後には上乗せ分まで喰い込んでいる。

大学出版部ニュース

産業能率大学出版部

産業界との密接なつながりが強い私どもの出版部では、三菱商事編著『求む！日本のパートナー』、川鉄商事編著『逆境を拓く』が好評をもって迎えられた。ことに『逆境を拓く』は八重洲ブックセンターで六月末から三週間にわたってベストテン入りした。

また、昨年十月発売以来ベス

内容の実証性が評価され、立場・専門を異にする人からも受け入れられたのである。■ 『物理教授法の研究』の場合、定価・想定読者から、部数増を見送った。結論はさらに早く、1ヵ月後に返品待ちとなった。物理教育の現場で指針を求めている先生の状況がこれほどまでとは思わなかった。著者の熱意が数量化されて表現されたのである。

リスクの覚悟を抜きにしては、「出版」は成立たないと思う。

トセラーを続けている『青春という名の詩』は、ひきつづき好調な売行きを示して、十万部に

ななんとなしてている。ことに本書を機縁として、幻の詩人サムエルマンの二人のお孫さんを囲んで、九月下旬、トップ経営者二〇〇人が「青春の詩の集い」が開催された。その模様は内外のテレビ、新聞、週刊誌等で伝えられ、一つの社会現象となっている。ひきつづき多くの読者を獲得することが期待される。

慶應通信

● 小此木政夫・赤木完爾共編『冷戦期の国際政治』（定価三八〇〇円）第二次大戦終了後、米ソ両国は「冷戦」と呼ばれる厳しい国家間対決に突入し、各々その同盟国を糾合し、世界を二つの陣営に分裂させた。本書は一九四三年末から一九六三年までの約二〇年間を冷戦期とし、この時期の国際政治を、米

ソ関係やヨーロッパ情勢を背景に、アジア・太平洋から中東に至る地域での（一部では熱戦化した）冷戦の展開を中心に分析する。

本書は、執筆者共通の問題意識として、国際政治における権力政治的な契機をきわめて重視し、また、全体を俯瞰的に把握することも、様々な地域の政治動態と冷戦という普遍的な国際環境が交錯する部分も把握できるように構成されている。

玉川大学出版部

山本正男監修『芸術学研究双書』『芸術学の方法』『芸術と民族』『芸術と装飾』『芸術と社会』芸術学の研究は厳密にいえば、芸術哲学・芸術科学・芸術論・一般芸術学さらには比較芸術学等の諸方法・諸領域を包括するわけであるが、日本の従来の研究書は個別的・分化的でその総合的連関をもたない。本研究双

書はその総合的関係を明らかにし、芸術学の諸領域を鳥瞰したものである。執筆者は美学・芸術学を代表する日本・ドイツの研究者を中心として、ある特定のテーマのもとにオリジナルな論文を執筆している。

〈近代美学双書〉（続刊中）へ美術教育学研究（全四巻完結）と併せて、売れ行きは地味ではあるが、科学技術書や経済書にはない感性の発見書と自負している。

中央大学出版部

『地域をなぜ問いつづけるか』
バイオの実用化、ニューメ

ディアの登場は生活万端に快適さをもたらした反面、隣人さえ誰だか解らないと言うような人間関係の崩壊をも呈している。

この現実を直視して未来を展望することは大変困難な時代である。それゆえ今こそ近代日本を再構成する必要にせまられて

大学出版部ニュース

東京大学出版会

■読者カードの一言に励まされることが多い。

「世界に対する視点がまた一つ自由になった」「続刊が楽しみ」などとあると、次の企画に取り組み意気込みも違ってくる。

ところで、認知科学選書の読者カードは、実に幅広い層から寄せられている。

「コンピュータ時代にふさわ

いる。

本書は、著者がこの二〇年来全国各地を渉猟しながら、その豊かな感性と構想力を駆使しつつ、埋もれていた貴重な地域資料を再生し、世界的視野から歴史創造の視点と変革のエネルギーの所在を探り、研究の方向を人々に提示し、混迷の時代に一石を投じる。

現代と地域の地平から、日本の近代を捉えなおす野心作。

金原左門著 定価四八〇〇円

東海大学出版会

●小会は創立25周年を迎えた。記念行事として「ニューメディア

アフォーラム」（紀伊國屋ホール）を開催した。高度情報化社会の現状と将来を、公文俊平、粉川哲夫氏らがパネルディスカッション。あふれる入場者の整理に大わらわの一幕もあった。同時刊行の『ニューメディアアカタログ88』も好調なすべり

東京電機大学出版局

『書評抄録』『都心の土地と建物—東京・街の解析—』八木澤

壯一他共著／定価二二〇〇円
既成市街地の環境変化をテーマに二〇年間にわたる研究の一部をとりまとめた。都市の土地と建物、道路と宅地、利用用途と権利関係など、多面的な分析をしている。『朝日新聞』評
土地利用用途図や航空写真等

出。また記念出版として『翔ぶ・伝統芸能』と『日本産稚魚図鑑』を12月と2月に刊行するが、いずれも話題を呼ぶ大型企画だ。●好評刊行中の「フィード図鑑」の読者お楽しみ会として初の「ネイチャーウォッチング星座と野鳥の旅」を夏休みに東海大学婦恋高原研修センターで実施し大盛況であった。●会長の松前達郎が出版文化国際交流会の会長に就任。より一層の躍進をになうことになる。

の資料も多く、なかでも「青山通り街並の変遷」をとりあげた連続立面図は貴重な資料。『日刊工業新聞』評

都心部の急激な移り変わりは都市工学や建築学の分野から注目され。著者は、主要道路に沿った町並を執念深く追い続けてきた。研究手法は、妙な思い入れや、ありきたりの善悪論を一切退けて、あくまで客観的に都市の変化を再現することに徹している。『読売新聞』評

東京農業大学出版会

「21世紀の農業展望」シンポジウム報告書シリーズ。本学創立90周年を記念して発足、100周年には農業への提言を試みようとするシンポジウムの記録。毎年東京での開催と合わせて、地域の特異性を主題に討議する地方での開催を併行。62年、21世紀の森林―豊かな生活環境の形成のために。首都圏農業と生活環境

―埼玉県を中心として。農山村の高齢化と地域経済振興―広島県（以上近刊）。61年、新しい農産物流通への挑戦。地域農業の展望と生活文化―熊本県。60年、食料生産における生物工学の現状と展望。稲作農業の振興―山形県。施設園芸の現状と展望―高知県。59年、地域農業の課題と展望―静岡県。地域農業の活性化と後継者の育成―大分県。58年、日本農業は生き残れるか。（下とも300円）残僅少

東京理科大学出版会

明日をひらく科学教養誌
SUT BULLETIN
本誌は、科学の新知見・新技術が人間性の高揚、人類の繁栄にどのようにかされるべきかを常に問いかけ、誰にも楽しく科学知識が得られるように平易な文章で綴り、さらに

高度の情報について、生涯教育を指向した啓蒙と普及を目的に編集している。最近の特集テーマを次に掲げる。
〔62年度後半〕
くすり（10月）
超新星を捕らえた（11月）
醸造―酒（12月）
画像（1月）
脳（2月）
あいまいさの科学（3月）
国際化時代の理工系大学教育（4月）

大学出版部ニュース

法政大学出版局

■本年度サントリー学芸賞受賞長島伸一著『世紀末までの大英帝国』四六判・定価二七〇〇円
：本書は分類からいえばイギリス近代史ということになるが、当時の図版や家計データをふんだんに用いた日常生活ウォッチングが中心なので、大変親しみがもてる。：上層階級の虚栄心や中流の上流気取り、また下層

の中流模倣が、案外経済発展の動力ともなり経済学説の発想源ともなっていることが読みとれて、興味深い。：巻末索引には「街路清掃夫」「どぶざらい」などの項目も挙がっている。が、影の部分にこびを売るといふの単なる路地裏ものとは違う。政治経済史と日常生活過程と経済思想とが三位一体、見事に織り成されていて、歴史書はかくあるべしとさえ思わせる。
高橋洋児氏『サンデー毎日』評

明星大学出版部

明治後半期以降、わが国にはその時々において数々の審議機関が設けられた。現在進行中の『文政審議会議事速記録』は内閣総理大臣の諮詢に依って重要な教育方針を審議した常設的な教育政策審議機関であった、大正末期から昭和初期という、教育をめぐる現代的諸条件が形づくられはじめた時期に、それらに

対応すべく慎重に審議された事項である。そのなかには、今日においても検討に値する問題が少なからず含まれている。その総会の議事速記録および一部の特別委員会議事録のペン書き原本が各一部国立公文書館に所蔵されているのみであったが、今回それらの議事録がはじめて刊行される。文政審議会の審議内容を正確に把握するうえで、少なからぬ便益を提供するものと思われる。（六三年三月刊行予定）

早稲田大学出版部

▼『早稲田大学蔵資料影印叢書／国書篇第一期』が62年12月に完結する。大学創立百周年を機に、図書館、演劇博物館などが所蔵する貴重な学術文献の公開を企てたもので、掖斎書入倭名類聚鈔、前田流譜本平家物語、中世歌書集、元禄俳諧集、古文書集など、重文に指定された逸品を含む影印版全16巻からなる

大学出版部ニュース

関西大学出版部

★書評抄録 大塚忠著『労使関係系史論—ドイツ第2帝政期における対立的労使関係の諸相』が昭和62年度労働関係図書優秀賞を受賞した。日本労働協会雑誌の書評で、「本書はドイツ労使関係の実態に迫る力作であり、労働問題に関心のある歴史家にとっても、現代労使関係の研究者にとっても必読の書となつて

▼ひき続き『国書篇第二期』の刊行を63年3月から始める。軍記物語集、宗祇連歌集、能楽資料集、浮世草子集、馬琴評答集等、第一期同様、稀覯資料全16巻からなる。三カ月に1冊配本

▼最近、奈良絵本が、日本固有の貴重な文化遺産として再認識されてきた。中野幸一編『奈良絵本絵巻集』は、美麗で素朴な絵本・絵巻31点を選択し影印版全12巻にまとめる。62年11月刊行開始、毎月1冊ずつ配本する

いる。特に技能訓練を扱った第一部は精緻を極めており、今後このテーマに関して古典としての地位を得ることであろう。」(乗杉澄夫氏)と高評された。

★新刊紹介 藤本勝次他訳『ウサーマ・ブス・ムンキズ回想録』ウサーマは12世紀シリアのアラビア人で武人として十字軍との戦いに参加し、また外交官、文人としても活躍した。本書はその体験談や逸話などの記述を翻訳注釈した貴重な文献である。

名古屋大学出版会

〈話題の本〉

『ロシア原初年代記』國本哲男他訳・A5判・一〇〇〇〇円

別名『過ぎし年月の物語』と呼ばれる本書は、十二世紀にキエフの修道僧ネストルによって書かれたロシア最古の年代記。ノアの洪水から説き起し、キエフ国家の成立、諸公の事蹟、キリスト教への改宗等十二世紀まで

九州大学出版会

▼〈経済工学シリーズ〉刊行開始。九州大学経済学部は経済工学科が設置されて十年になる。

『経済工学』とは、国民経済・産業・企業の各レベルにおける組織・計画・管理の諸問題の解明に数理的・計量的分析方法を適用しようとする学問の総称である。『細江守紀』『不確定性と情報の経済分析』、岩本誠一『動

の出来事が、それ以前の年代記類、神話、聖者伝、フォークロアを集大成して、ロシアの統一という理念のもとに編年体で記録されている。この記録の解読が今なお古代ロシア研究の重要作業とされている点で、本書は一級の歴史文献といえよう。しかし、本書の価値はその資料性に尽きない。民間伝承や歴史物語、何よりもその生彩に富む簡潔な文体と相まって、香り高い叙事文学の傑作となっている。

的計画論」、時永祥三『経済・経営のためのプログラミング』以下続刊、乞御期待。▼平嶋義宏(九大農学部教授・日本昆虫学会会長)『蝶の学名—その語源と解説』が好調な売れ行きを示している。著者が昆虫分類学の権威者であること、学名の語源(特に古典語)の解説書がなかったこと、蝶類研究者・愛好者の層が厚いこと、一般知識人がギリシア語・ラテン語の語彙として利用できることなどによる。

新刊案内 '87・4/9

■北海道大学図書刊行会

- マルクス機械論の形成 吉田 文和 四五〇〇円
 北海道自然100選紀行 朝日新聞北海道支社報道部編 一八〇〇円
 物理教授法の研究 高村泰雄編 六五〇〇円
 原色図譜 エンレイソウ属植物 鮫島和子・惇一郎 一八〇〇円
 文化としての北 北海道大学放送教育委員会編 一五〇〇円
 中国の古典を読む 北海道大学放送教育委員会編 一八〇〇円

■慶應通信

- 発達障害児の就学前期指導プログラム 川村秀忠編著 二六〇〇円
 日常生活と社会学論—社会学の視点— 山岸 健編 三九〇〇円
 日常生活の指導の手引 文部省 四一〇〇円
 ドイツ・ワイマール期の社会調査 S・P・シャド／川合隆男・大淵英男訳 二〇〇〇円
 正論自由 第五巻—日本人の誇り— 中村 勝範 一七〇〇円

- 雙学校中学部国語(言語編)教科書指導書 文部省 一二〇〇円
 冷戦期の国際政治 小小木政夫・赤木完爾共編 三八〇〇円

■産業能率大学出版部

- 新・社内文書作成百科 坂井 尚 一八〇〇円
 無在庫販売 中井 久史 一三〇〇円
 強い営業部門の育て方 岡部 博 一六〇〇円
 新・社外文書作成百科 坂井 尚 一八〇〇円
 イデオロム英会話上達法 重長 信雄 一五〇〇円
 変わる問屋の経営戦略 波形 克彦 一六〇〇円

- ヒット商品・ヒット広告 河田卓著・八巻俊雄監修 一五〇〇円
 逆境を拓く 川鉄商事広報室編・宮本惇夫著 一三〇〇円

- 国際ビジネス実務戦略 萩原 泰弘 一六〇〇円
 表計算ソフト入門 五十嵐利信アントニー 一八〇〇円

- 顧客情報・市場情報のつかみ方・活かし方 国司義彦 一三〇〇円
 求む!日本のパートナー

- 三菱商事メディア起業チーム／ベンチャー・リンク編 一八〇〇円
 企業の情報武装戦略 J・ディーボルト／千尾将訳 一八〇〇円

- 業務改善の考え方・進め方 森谷宜暉・山下福夫 二三〇〇円
 セールス感覚の磨き方・人生の磨き方 田中 真澄 一三〇〇円

- アイデアはこうすればお金になる 豊沢 豊雄 一三〇〇円
 時流をとらえよ! 六車 博美 一五〇〇円

- レコードマネジメント 三沢 仁 一五〇〇円
 新任管理者講座 小橋 邦彦 一四〇〇円

■玉川大学出版部

- 大学教育の目的 K・E・エブル／高橋靖直訳 二八〇〇円
 教育学思考のパラダイム転換

- J・デルボラフ／小笠原道雄・今井重孝訳 二〇〇〇円
 みんなで創る英語劇①②③ 岡田陽・佐野正之編 各一八〇〇円

- 歩いてゆこう 小宮路 敏 一五〇〇円
 ゲルトルト教育法・シユタンスツ便りへ西洋の教育思想6

- J・H・ペスタロッチー／前原寿・石橋哲成訳 四二〇〇円
 全人教育への道 小原哲郎編 一六〇〇円

- 日本教育史 石川松太郎ほか 二四〇〇円

日本の現代詩 那珂太郎・高柳誠・時里二郎編著 二四〇〇円
交響曲第九番合唱 玉川学園編 六〇〇円

■中央大学出版部
希望と幻滅の軌跡―反ファシズム文化運動― 中央大学人文科学研究所編 三五〇〇円

法律家を指す諸君へ〔昭和62年度版〕 中央大学法職講座運営委員会編 一〇〇〇円

債権総論 白羽 祐三 二〇〇〇円
増補日本国憲法的情景 小林源次郎 一五〇〇〇円

増補労働経済の発展 清水 陸 一九〇〇円
判例の権威―イギリス判例法理論の研究― 新井 正男 二八〇〇円

増補イギリス革命―歴史的風土― 田村 秀夫 二二〇〇円
新しい行政学 H・G・フレデリクソン／中村陽一監訳 二〇〇〇円

過剰労働経済の発展 吉村 二郎 三〇〇〇円
正義へのアクセスと福祉国家 M・カペレッティ編／小島武司・谷口安平編訳 四五〇〇円

日本資本主義の歴史と現状 中央大学経済研究所編 二八〇〇円
歴史における文化と社会 中央大学経済研究所編 二〇〇〇円

■東海大学出版会
遣唐使研究と史料 茂在寅男ほか 四五〇〇円

繁殖行動と適応戦略〈動物⑫〉 糸魚川直祐ほか 一八〇〇円
環境教育のすすめ 沼田 眞編 二五〇〇円

ニューメディア・カタログ'88 かがくざろん編集部編 一四〇〇円
高山植物へフィールド図鑑 奥田重俊ほか 二〇〇〇円

In Search of the Culture of Scandinavia 松前重義 三〇〇〇円
スターウォッチング 林 完次 二〇〇〇円

武道思想の探究 松前重義編 一五〇〇円

パシフィックプログラミング T・A・ギブソン 二二〇〇円
Studies on Cryptograms in Southern Peru 井上 浩編 九五〇〇円

宗教から哲学へ F・M・コーンフォード 三八〇〇円
日本の昆虫群集 木元新作・武田博清編 二八〇〇円

■東海大学出版会
東京大学百年史 部局史三 西川正雄・小谷汪之編 八〇〇〇円

現代歴史学入門 木畑 洋一 一八〇〇円
支配の代償〈新しい世界史5〉 田中英夫・竹内昭夫 二八〇〇円

法の実現における私人の役割 稲本洋之助ほか 五〇〇〇円
借地・借家制度の比較研究 片平 秀貴 三二〇〇円

マーケティング・サイエンス 安藤 良雄 八〇〇〇円
太平洋戦争の経済史的研究 雇用職業総合研究所編 三八〇〇円

女子労働の新時代 永野三郎・長島忍・吉村伸 二二〇〇円
Pasand プログラミング 佐原 雄二 一一〇〇円

魚の採餌行動〈UPバイオロジー64〉 日本史籍協会編 八〇〇〇円
文部省日誌 24 貴族院事務局編 八〇〇〇円

貴族院委員会速記録 19 衆議院事務局編 九〇〇〇円
衆議院委員会速記録 19 国立公文書館編 九〇〇〇円

秘密院会議事録 39 東京大学 八〇〇〇円
東京大学百年史 部局史四(全10巻完結) 加納 喜光 二四〇〇円

中国医学の誕生〈東洋叢書2〉 藤倉皓一郎 九八〇〇円
憲法・裁判所・人権 M・J・ペリイ／芦部信喜監訳 三二〇〇円

英米法論集 編集代表・藤倉皓一郎 一五〇〇円
日本型の情報社会 林 周二 二八〇〇円

ケインズ研究―貨幣論から一般理論へ― 平井 俊頭 二八〇〇円
日本産銅業史 武田 晴人 六四〇〇円

マス・コミュニケーションハリディンクス日本の社会学 竹内郁郎・岡田直之ほか 二五〇〇円

文化と現代社会	見田宗介・宮島喬編	四〇〇〇円	超伝導材料(材料テクノロジー19)	堂山昌男・山本良一編	三二〇〇円
社会運動と文化形成	栗原 彬・庄司興吉編	四〇〇〇円	バイオテクノロジーと医療	高久 史磨	二四〇〇円
自閉症の研究と展望	山崎晃資・栗田広編	五二〇〇円	細胞生物学(下)	G・カーブ/寺山 宏・嶋田拓監訳	八五〇〇円
写真集 日本周辺の海溝	海溝Ⅱ研究グループ編	八八〇〇円	精神生理学入門	J・ハセツト/平井久ほか編訳	二九〇〇円
大日本史文庫 第九編之十八	東大史料編	七六〇〇円	神経回路網とその疾患	豊倉康夫・岩田誠編	二八〇〇円
大日本古史文書 幕末外国関係文書四十一	東大史料編	四二〇〇円	正倉院文書目録一 正集	東大史料編	二二〇〇円
大日本維新史料 類纂之部井伊家史料十五	東大史料編	七六〇〇円	大日本史料 第六編之四十	東大史料編	九〇〇〇円
太政官沿革志 9	日本史籍協会編	八〇〇〇円	大日本史料 第七編之二十五	東大史料編	八八〇〇円
太政官沿革志 10 (全10巻完結)	日本史籍協会編	八〇〇〇円	大日本古史文書 蛭川家文書之三	東大史料編	五四〇〇円
文部省日誌 25 (全25巻完結)	日本史籍協会編	八〇〇〇円	越後国郡絵図	東大史料編	四二〇〇円
貴族院委員会速記録 20	貴族院事務局編	九〇〇〇円	貴族院委員会速記録 21	貴族院事務局編	九〇〇〇円
衆議院委員会速記録 20	衆議院事務局編	九〇〇〇円	衆議院委員会速記録 21	衆議院事務局編	九〇〇〇円
枢密院会議事録 40	国立公文書館編	九〇〇〇円	枢密院会議事録 41	国立公文書館編	九〇〇〇円
Paleolithic Site of the Donara Cave and Paleogeography of Palmyra Basin in Syria, Part IV 赤澤威・阪口豊編	八五〇〇円	井上毅伝外篇 近代日本法制史料集 第九	ボアソナード答議二 国学院大学日本文化研究所編	五〇〇〇円	
Paleobiological Study of the Late Triassic Vavale Monotis from Japan 安藤 寿男	五五〇〇円	森と文化	森と文化	二二〇〇円	
文学にあらわれた日本人の納税意識 佐藤 進	一四〇〇円	バイオテクノロジーと社会	バイオテクノロジーと社会	一八〇〇円	
チベット(上)《東洋叢書3》 山口 瑞鳳	二六〇〇円	子どもの自分くずしと自分づくり	子どもの自分くずしと自分づくり	二二〇〇円	
傾いた図形の謎《認知科学選書11》 高野陽太郎	一八〇〇円	音楽と認知《認知科学選書12》	音楽と認知《認知科学選書12》	一八〇〇円	
絵図にみる荘園の世界 小山靖憲・佐藤和彦編	二五〇〇円	草の根のファジズム《新しい世界史7》	草の根のファジズム《新しい世界史7》	一八〇〇円	
二つの黒人帝国《新しい世界史6》 岡倉 登志	一八〇〇円	ジョン・ロックの思想世界	ジョン・ロックの思想世界	二八〇〇円	
イギリス支配とインド社会 松井 透	一八〇〇円	食管制度―変質と再編―	食管制度―変質と再編―	三二〇〇円	
アメリカ史概論 有賀 貞	二四〇〇円	日本社会の構造(第2版)	日本社会の構造(第2版)	一九〇〇円	
近代日韓関係史研究 森山 茂徳	四八〇〇円	日本第四紀地図	日本第四紀地図	二二〇〇円	
日本の金融(II) 館龍一郎・蟻山昌一編	二五〇〇円	医学免疫学(第3版)	医学免疫学(第3版)	二九〇〇円	
日本経済のマクロ分析 浜田宏一ほか編	三五〇〇円	新しい量子化学(上)	新しい量子化学(上)	四二〇〇円	
現代世界経済 大島 清編	三二〇〇円	N・S・オストルト/大野公男ほか訳	N・S・オストルト/大野公男ほか訳	二八〇〇円	
内なる宣長 百川 敬仁	二二〇〇円	材料の評価システム《材料テクノロジー8》	材料の評価システム《材料テクノロジー8》	二八〇〇円	
資源開発計画とその方法 高多 明	二五〇〇円	堂山昌男・山本良一編	堂山昌男・山本良一編	二八〇〇円	

貴族院委員会速記録 22

衆議院委員会速記録 22

大塩平八郎一件書留

Economic Growth in Monsoon Asia

The Tale of the Soga Brothers

ことばからみた心へ認知科学選書13

法形成過程へ英米法研究1

日本の社会1

日本の社会2

ニューヨークへ世界の大都市4

工学における設計

続 分裂病とはなにか

大日本古文書 東寺文書之八

大日本古文書 東大寺文書之十三

貴族院委員会速記録 23

衆議院委員会速記録 23

憲法と日本人

「わだ」から知るへ認知科学選書14

異郷と故郷へ新しい世界史8

英国貴族と近代へ持続する統治 一六四〇—一八八〇

日本経済論

高度情報社会の企業経営

アジア新工業化の展望

現代の社会人類学1

社会病理の分析視角—ラベリング論—再考—

デュルケム理論と現代

貴族院事務局編

衆議院事務局編

国立史料館編

H. T. Oshima

T. J. Cogan

大津由紀雄編

田中 英夫

蓮見音彦・山本英治・高橋明善編

蓮見音彦・山本英治・高橋明善編

大阪市立大学経済研究所編

猪瀬 博編

稲永和豊・融道男編

東大史料編

東大史料編

衆議院事務局編

貴族院事務局編

衆議院事務局編

小林 直樹

生田久美子

伊藤 定良

水谷 三公

内田 忠夫

石井威望編

奥村茂次編

伊藤亜人・関本照夫・船曳健夫編

徳岡 秀雄

宮島 喬

八〇〇〇円

八〇〇〇円

八八〇〇円

六八〇〇円

四八〇〇円

一八〇〇円

三四〇〇円

二〇〇〇円

二〇〇〇円

三〇〇〇円

二五〇〇円

四八〇〇円

五〇〇〇円

三八〇〇円

八〇〇〇円

一〇〇〇円

一八〇〇円

一八〇〇円

四四〇〇円

三八〇〇円

一八〇〇円

三四〇〇円

二八〇〇円

三四〇〇円

三八〇〇円

統 脳の生体警告系 高木博司・大村裕・伊藤正男編

動物の系統と固体発生へUPバイオロジー65

葉緑体の分子生物学へUPバイオロジー66

薄膜の基本技術〔第2版〕へ物理工学実験5

建築物の耐震極限設計〔第2版〕

貴族院委員会速記録 24

衆議院委員会速記録 24

Cellular, Molecular and Genetic Approaches to Immunodiagnosis and Immunotherapy

染色〔3訂版〕

照明工学講座へ理工学講座〔新訂版〕

基礎電気・電子工学へ理工学講座へ監修宮入庄太ほか

第一種情報処理試験全問題解答集〔六二年版〕

数理科学概論へ情報科学セミナー

Pascalによるデータ構造へ情報科学セミナー

電気通信技術の基礎へ工担者受験教室①

アナログ端末設備接続技術へ工担者受験教室②

デジタル端末設備接続技術へ工担者受験教室③

端末設備接続に関する法規へ工担者受験教室④

無線機器へ無線従事者国家試験2技1・2通受験教室③〔改訂版〕

近藤一夫監修

関 重広

岩崎 臣男

蔵内 照智

大久保弘六

東京電機大学出版局編

秋富 勝

第二種情報処理試験全問題解答集〔六二年秋季版〕

図解一六ビットマイコン68000とファミリの活用

D・M・A・C・A・C・R・T・C・H・D・C 関根慶太郎監修

図解機械材料J金属材料から新素材まで― 打越二彌

B・A・S・I・C システム工学〔理工学講座〕 松永 省吾

機械製図〔5訂版〕 東京電機大学編

例解Z80マイコンのハードとソフト 倉石源三郎

基礎と演習 圧縮性・粘性流体力学 岩本順二郎

■東京農業大学出版会

日本庭園の特質―様式・空間・景観― 進士五十八

A・C・I 特集「銘柄・ブランド」― 近藤 三雄

公園芝生地の収容力に関する研究 養父志乃夫

野生草花による景観の創造 一五〇〇円

■東京理科大学出版会

■法政大学出版局

石垣普請へものと人間の文化史58 北垣聰一郎

資本蓄積と景気循環 日高 普

経済学入門 遠藤 茂雄

近代日本交通史 広岡治哉編

自らに手をくだし J・アメリカ／大河内了義訳

世紀末までの大英帝国 長島 伸一

柳田国男 談話稿 柳田為正・千葉徳爾・藤井隆全編

哲学37 ―特集―意識と脳― 日本哲学会編

アドルノのテルミノロジー 三光 長治

フッサールの現象学 A・アグイレ／川島秀一ほか訳

フランス人とイギリス人 R・フェイバー／北条ほか訳

文明の試練 J・M・カデヒイ／塚本利明ほか訳

加賀藩林制史の研究 山口 隆治

カーニバル J・カロ・パロツハ／佐々木孝訳

内なる光景 J・ボミエ／角山元保・池部雅英訳

人間の原型と現代の文化 A・ゲールン／池井望訳

経済原論 田代 正夫

数学史のなかの女性たち L・オーセン／吉村ほか訳

ピラミッドを探る K・メンデルスゾーン／酒井訳

労働農民党5〔日本社会運動史料・原資料篇〕

法政大学大原社会問題研究所編 二八〇〇円

パーソナルコンピュータへの誘い 平野・盛田編

田岡嶺雲 女子解放論 西田 勝編

脳と心の正体 W・ペンフィールド／塚田・山河訳

サルから人間へ H・ヴェント／寺田和夫・中江寅彦訳

イデオロギーと想像力 G・C・カバト／小箕俊介訳

同時代49 ―特集・インド*芸術と文学― 黒の会編

パリの断頭台 B・レヴィ／喜多迅鷹・喜多元子訳

ギリシアの光と神々 K・ケレーニイ／円子修平訳

パロツクとロココ W・V・ニーベルシュッツ／竹内訳

初めに愛があった J・クリステヴァ／枝川昌雄訳

司祭アーミス 藤代幸一編訳

人間の進歩 J・ブロンフスキー／道家達将・岡喜一訳

■明星大学出版部

新訂 児童心理学 塚田 紘一

大衆の社会学―民衆の大衆論の構築― 梅沢 孝

■早稲田大学出版部

教育観の転換―ルソールの視点から― 押村 襄

「最初の工業国家」を見る眼 鈴木建夫ほか

昭和史を語るⅡ〔早稲田選書5〕 木村 時夫

ポスト福祉国家の政治―新個人主義への対応―(政治理論叢書)

ハンコック・ショバリー編著/萩野浩基監訳 一九〇〇円

アメリカ六・三制の成立過程 市村 尚久 八五〇〇円

第三世界と平和(平和研究叢書4) 西川 潤 二〇〇〇円

早稲田大学蔵資料影印叢書七 中世歌書集

早稲田大学蔵資料影印叢書刊行会編 一五〇〇〇円

演劇年報 一九八七年版 早稲田大学演劇博物館編 三〇〇〇円

中国からみた日本近代史 劉惠吾・劉学照編/横山沢 二五〇〇円

今井兼次絵日誌 昭和十六年 今井 兼次 四八〇〇円

早稲田大学蔵資料影印叢書一 倭名類聚鈔一 早稲田大学蔵資料影印叢書刊行会編 一五〇〇〇円

■名古屋大学出版会

図学―コンピュータグラフィックス入門―峯村吉泰 二〇〇〇円

資本主義世界経済―中核と周辺の不平等― ウォーラー・ステイン/藤瀬浩司ほか訳 二五〇〇円

PROCEEDINGS OF THE FIRST INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON PEDIATRIC NEUROLOGY

景山直樹編 八〇〇〇円

暗黒への旅立ち―西洋近代自我とその図像 1750-1920―

学窓雑記― 荻野 昌利 二二〇〇円

定期市の研究―機能と構造― 飯島 宗一 二〇〇〇円

近代革命とアジア 石原 潤 六五〇〇円

雷放電現象 河野健二編 二五〇〇円

Neonatal Brain and Behavior 竹内 利雄 五〇〇〇円

資本主義世界経済Ⅱ―階級・エスニシティの不平等、国際政治― 藪内百治ほか編 八〇〇〇円

日南田静眞監訳 二五〇〇円

三〇年代イギリス外交戦略―帝国防衛と有和の論理― 佐々木雄太 五五〇〇円

■関西大学出版部

人の顔または表情の識別について(上) 池田 進 三八〇〇円

ウサーマ・ブヌ・ムンキズ 回想録 藤本勝次ほか訳 五三〇〇円

中国現代史―革命と建設の基本問題― 馮玉忠主編/芝田稔・鳥井克之訳 五〇〇〇円

中国・和蘭羊毛技術導入関係資料 角山幸洋編 四八〇〇円

MIN'YAKU YAKKI 中江兆民/福井七子訳 二五〇〇円

■九州大学出版会

九州石炭産業史論 正田 誠一 六〇〇〇円

ソフト経済の研究 徳永正二郎・矢田俊文編 二五〇〇円

高齢化社会と家庭生活―九州地区における現状ならびに課題と提言 九州家政学総合研究会編 二五〇〇円

アジアの文化と教育 権藤與志夫・弘中和彦編 二二〇〇円

不確実生と情報の経済分析(経済工学シリーズ) 細江 守紀 二八〇〇円

動的計画論(経済工学シリーズ) 岩本 誠一 二八〇〇円

合併財務会計政策―アメリカ第三次合同運動― 佐々木利充 二〇〇〇円

生活と科学―九州大学公開講座17― 九州大学公開講座委員会編 二〇〇〇円

人と教育(九州大学公開講座18) 九州大学公開講座委員会編 一八〇〇円

蝶の学名―その語源と解説― 平嶋 義宏 三四〇〇円

社会学基礎理論―近代化と共同体意識― 大本 晋 三七〇〇円

からだの健康と福祉(久留米大学公開講座1) 瀨瀬教三・的場恒孝編 一七〇〇円

英米文学概観 高月麗子・中条愛子 一七〇〇円

現代社会政策論(佐賀大学経済学会叢書) 中原弘二 二八〇〇円

(14頁より続く)

(3) 中国大学出版社の現況

中国における大学出版社は、一八九八年、京師大学堂に設けられた梁啓超教授主宰の訳書局に始まるといわれている。しかし、本格的活動は新中国成立以後、それも四人組追放後の一九八〇年代に入ってからであった。日中両大学の出版部間の交流は一九八五年、北京大学出版社(团长)、中国人民大学出版社、北京師範大学出版社、清華大学出版社等による中国大学出版社訪日代表団を迎えたことによつて開始された。

翌八六年九月、'86北京国際図書展にあたり、中国出版部協会の派遣した代表団が、北京大学出版社をはじめ首都圏大学出版社の代表と会談したとき、中国では大学出版社が各地重点大学を中心に国家教育委員会の指導と承認によつて連続と誕生し、全国的統一組織の結成が準備中であること、また二三大学図書展(一九八六年四月)、三四大学図書展(六月)、四七大学図書展(九月)が着々と実施され、北京国際図書展には、六六大学出版社の刊行物を西南・西北・華東・東北・中南・北京の六地域にわたつたブースにそれぞれ展示するまでにいたつてゐることを知つた(『大学出版』7号所収の報告参照)。

そして一九八七年六月、中国大学出版社協会が結成された。加盟出版社九一(そのなかには高等教育出版社、人民教育出版社、教育科学出版社、広東高教出版社等、国家教育委員会に直属する、大学と高等専門学校の関係書籍の出版

社も含まれている)、理事長に羅国杰・中国人民大学大学副学長、副理事長に袁華・中国教育圖書进出口總公司總經理、秘書長、高旭華中国人民大学出版社副社長、対外担当・麻子英北京大学出版社社長という陣容である。

その任務は、大学の役割——教育と科学研究——の出版による補完であり、とくに国家教育委員会は全国的な大学の統一編集教材の出版を重視している。高等教育出版社等、そうした教材刊行に優れた実績とノウハウをもつ出版社が加盟している所以であらう。

同時に、開放政策のもと、研究成果の発表・吸収にも熱心で、世界各国の大学出版社との連携・交流を欲している(麻子英北京大学出版社社長は一九八七年六月のアメリカ大学出版社協会総会にも参加した由)。日本の大学出版社協会に対し、密接な関係の樹立を期待していることはいうまでもなく、今回の訪中においても前後三回にわたり、話し合いをもつた。その内容は、互恵平等の精神をもつて①学術、②人材、③図書それぞれの交流の実現をはかることであり、具体的には、図書展示会の相互開催、翻訳出版・合作出版の推進、協会代表団の交換派遣、合同セミナー・研修の実施等が話題となつた。今年一月、版權法(著作權法)の制定、万国著作権条約への加盟を予定していることを考えれば、これらの課題は極めて現実性・具体性をもつものとみてよいだろう。

●あとがき

大学出版社協会の加盟校は、北は北海道大学図書刊行会、南は九州大学出版会まで十六大学。東京では毎月、幹事会、編集部会、営業部会が各々開催され、大学出版社運動の実現に鋭意努力している。勿論その議事録等はファックスと電話等で送られコンセンサスの確立も十分。四月から九月まで主な行事を記録してみよう。

●編集・営業合同研修会(第二回)
つくる側の編集と普及する側の営業との接点というテーマで各大学出版社が抱えている問題に焦点をあてて活発な発言・提言がなされ、意思の疎通を計る(六月十九・二十日、箱根)。

●AJUP (The Association of Japanese University Presses) Rights Available の作成
フランクフルトブックフェアに二十九点出品展示。その拡売材である(十月、西ドイツ)。
●一九八七年夏期研修会
メインレポーターに牧野本・牧祥平氏、ゲストに韓国大学出版社協会の十三名を迎えて、総数六十二名で濃度のあるセミナーを展開した。(九月三日～五日、栃木厚生年金休暇センター)

●訪中代表団の派遣(詳細は本文十一頁参照)
八七年国際外国語教育図書展展示会への参加が国際交流基金の後援で実現した(九月六日～十七日、中国・北京)。

(編集部会担当幹事 関野利之)

大学出版部協会加盟出版部一覽

北海道大学図書刊行会	〒060 札幌市北区北8条西8丁目 クラーク会館 TEL.011-747-2308 FAX.011-758-4071
慶應通信	〒108 東京都港区三田2-19-30 TEL.03-451-3584 FAX.03-451-3122
産業能率大学出版部	〒152 東京都目黒区自由が丘2-16-5 自由が丘サンビル4F TEL.03-724-9101 FAX.03-717-4346
玉川大学出版部	〒194 東京都町田市玉川学園6-1-1 TEL.0427-28-3213 FAX.0427-28-3218
中央大学出版部	〒190-03 東京都八王子市東中野742-1 TEL.0426-74-2351 FAX.0426-74-2354
東海大学出版会	〒160 東京都新宿区新宿3-27-4 新宿東海ビル TEL.03-356-1541 FAX.03-341-1833
東京大学出版会	〒113 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学構内 TEL.03-811-8814 FAX.03-812-6958
東京電機大学出版局	〒101 東京都千代田区神田錦町2-2 TEL.03-294-1551 FAX.03-294-2807
東京農業大学出版会	〒156 東京都世田谷区桜丘1-1-1 TEL.03-420-2131 FAX.03-706-8851 (総務課)
東京理科大学出版会	〒162 東京都新宿区神楽坂1-3 TEL.03-260-4271 FAX.03-260-4294
法政大学出版局	〒102 東京都千代田区富士見町2-17-1 TEL.03-237-1731 FAX.03-237-8899
明星大学出版部	〒191 東京都日野市程久保2-1-1 TEL.0425-91-5115 FAX.0425-93-0192
早稲田大学出版部	〒160 東京都新宿区戸塚町1-103 TEL.03-203-1551 FAX.03-207-0406
名古屋大学出版会	〒464 名古屋市千種区不老町1 名古屋大学構内 TEL.052-781-5027 FAX.052-781-0697
関西大学出版部	〒564 吹田市山手町3-3-35 関西大学会館 TEL.06-388-1121 FAX.06-330-3718
九州大学出版会	〒812 福岡市東区箱崎7-1-146 九州大学構内 TEL.092-641-0515